

ニホントカゲ・ニホンカナヘビを知ろう



ニホントカゲ

北海道、本州、四国、九州のほぼ全域に分布。平地から標高の高い山地まで生息し、石垣や草むら、土手、藪などでよく見られるよ。幼体は黒っぽい体色に5本の派手な縦縞模様が入るんだ。メスはこの体色のままとなになるけど、オスは褐色で落ち着いた体色になるよ。

ニホントカゲの幼体



ニホンカナヘビ

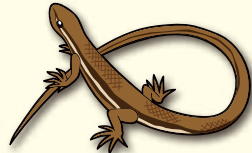
全国に広く分布する日本固有種で、平地の草むらや藪、山地、人家の庭先など、開けた場所に棲んでるよ。茂みや植木鉢の下、コンクリートの隙間などを探すと見つかりやすいよ。

トカゲとカナヘビの違いって？

ニホントカゲ



ニホンカナヘビ



つるつる、テカテカ	皮膚	カサカサ、キールと呼ばれる筋
ずんぐりむっくり しっぽの長さは体と同じくらい	体型・尾	細い しっぽの長さは体の約2倍
先が分かれていない	舌	先が2又に分かれている
のどが赤くなる	♂婚姻色	おなかや黄色くなる
土の中で卵を守る	子育て	卵を産んだらお別れ
2種類 ヒガシニホントカゲとニホントカゲ	種類	沖縄の仲間はカラフル

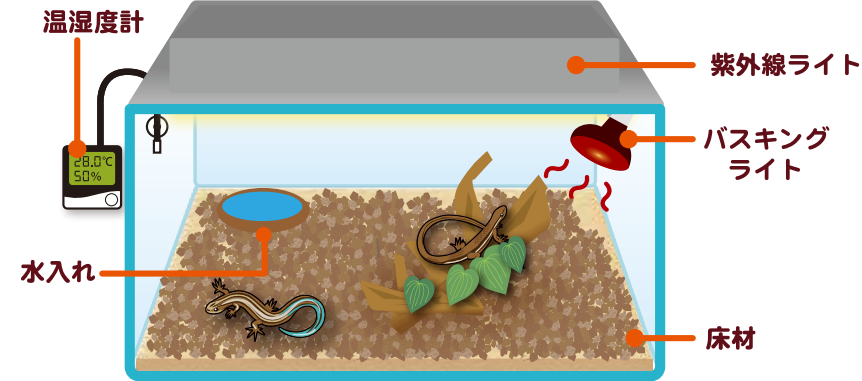
ニホントカゲ・ニホンカナヘビを飼おう

【ケージ】

市販されているプラケースで飼育可能ですが、フタの開け閉めで音になるケースはトカゲがびっくりして餌を食べづらくなってしまうです。扉式など開閉が静かで簡単なものと便利です。

【照明】

紫外線を浴びることで合成されるビタミンD₃が、骨の維持・成長に必要なカルシウムの生成を助けるため、紫外線（UV）ライトが必要です。また、日光浴代わりとなるバスキングライトもある方が望ましいです。ライトを浴びて体温を高めることで食欲向上・脱皮不全予防などの効果があります。



【水入れ】

濡れない程度に浅い水入れを用意しましょう。水分を補給するため、毎日交換して綺麗な水を保ちましょう。

【床材・温度】

床材はハスクチップやバークチップが最適です。市販の爬虫類ソイルも使用可能ですが、粒が細かいものは餌と一緒に誤飲する恐れがあります。

【シェルター・人工水草】

カナヘビやトカゲの仲間は臆病なため、隠れ家となるシェルターを用意してあげましょう。人工水草は、体を擦り付けたりして脱皮の手助けに使うことがあります。

⚠️ 自切に注意！

しっぽを掴むと切れてしまうことがあるよ。時間をかけてある程度は再生します。



【給餌】

3〜4日に1回、レオパゲルの場合は適量を、レオパドライは半分に分けてふやかしたものをピンセットでつまんで与えましょう。目の前でふりふりすると高確率で食いつきます。どうしても食べない場合は、ミルワームや活コオロギを与えてピンセットからの給餌に慣れさせましょう。



キョーリンのおすすめ飼料



吸水3分〜でモチモチ物性

レオパゲル《昆虫食》		レオパドライ《昆虫食》
◎	嗜好性	○
◎ ちぎれない	物性	○ 力加減必要
◎	累代繁殖	○ 繁殖
◎ そのまま給餌	給餌の手間	○ 水で3分〜
△ 冷蔵庫	保存性	◎ 常温
△	経済性	◎
×	ひかり菌	○

吸水5分過ぎてもモチモチ（レオパドライ）



ニホンアマガエルを飼おう

ニホンアマガエル

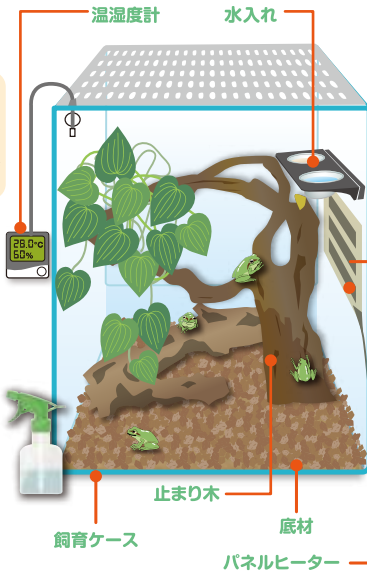
ニホンアマガエルは樹上での生活に適応していて、水辺の植物の上や森林などで暮らしているよ。春から秋まで活動し、冬は温度差の少ない地中で冬眠するよ。

変態中のニホンアマガエル



【温度】
21～28℃に保ちましょう。冬眠は難しいので、パネルヒーターを使用して越冬させる方が無難です。

【床材・湿度】
市販の両生類用ソイルも使えますが、園芸用の赤玉土や水ゴケなどでもいいでしょう。乾燥に弱いのでしっかりと湿らし、1日1回は霧吹きで湿度を50%以上に保とう。体表から水分を吸収するため、底材は定期的に洗うなどして清潔に保ちましょう。



【ケージ】
市販されているプラケースで飼育可能ですが、高さ(30cm程度)があると理想的です。飛び出しが多いので絶対にフタをしましょう。

【水入れ】
お風呂に入るように浸かっている可愛い姿が観察できます。全身が入る程度の大きさがあれば十分ですが、口ではなくお腹から水を補給するため、毎日交換して綺麗な水を保ちましょう。

【給餌】
2～3日に1回、レオバゲルなら適量を、レオパドライの場合は半分に割ってふやかしたものをピンセットでつまんで与えましょう。目の前でふりふりすると高確率で食いつきます。



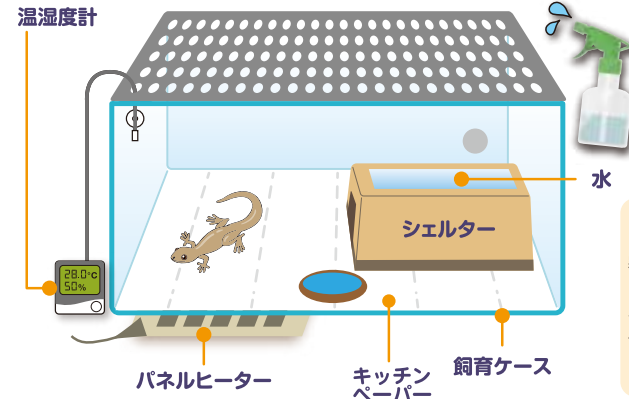
ニホンヤモリを飼おう

ニホンヤモリ

民家や街角の明かりに集まる虫を食べる夜行性の爬虫類だよ。漢字で「家守」と表記され、日本では家を守る縁起の良い生き物として昔から親しまれているよ。指には、肉眼では見えない細かい毛が無数についていて、壁やガラスにくっつくことができるよ。本州・四国・九州地方で春～秋にかけて見つけれられるよ。



【ケージ】
市販されているプラケースで飼育可能ですが、フタの開け閉めで音になるケースはヤモリがびっくりして餌を食べづらくなってしまいます。扉など開閉が静かで簡単なものだと便利です。脱走名人なので体が通れる程度の小さな穴も塞ぎましょう。



【温度】
日本に生息するヤモリなので温度幅はある程度あっても平気ですが、25℃前後が最も活発に活動します。冬眠は難しいので、パネルヒーターを使用して越冬させる方が無難です。パネルヒーターを使用する場合は全面に敷くのではなく、涼しいところも作ってヤモリが自分で調節できるようにしましょう。

【床材・シェルター】
床材はキッチンペーパーでの管理が最も簡単です。濡らしておくとも湿度も保てます。身を潜められるよう影ができるシェルターを用意してあげましょう。水入れ付きの物がよく使われます。



【給餌】
毎日1回、レオバゲルなら適量を、レオパドライの場合は半分に割ってふやかしたものをピンセットでつまんで与えましょう。目の前で動かしてあげると高確率で食いつきます。それでも食べてくれない場合は活コオロギをピンセットで与え、慣れさせましょう。

みんなの
人気者

野外でつかまえた
両生爬虫類

を飼おう



これ1冊で
各生き物の
飼い方がわかるよ！



ご自由にお持ち帰り下さい